

第3回これからの学びを実現する生駒南小・中学校の施設整備を考える会議 実施報告

令和6年3月8日(金)

1. 日 時

令和6年2月9日(金)15:30~17:00

2. 開催場所

生駒南小学校第二多目的室

3. 参加人数

14名(これからの学びを実現する生駒南小・中学校の施設整備を考える会議メンバー)

4. 実施方法

事務局からの生駒南小学校・生駒南中学校整備事業基本構想(案)の説明後、参加者14名を3グループ(4人、5人、5人)に分け、基本構想(案)についてグループディスカッションを実施。

5. 目 的

第1回、第2回会議の意見をもとに作成した生駒南小学校・生駒南中学校整備事業基本構想(案)について、新たな意見や修正案等について議論し、令和6年度以降に実施する基本計画の策定、基本設計、実施設計、工事に繋がる基本構想(案)を考える。

6. 当日スケジュール

開会

挨拶

生駒南小学校・生駒南中学校整備事業基本構想(案)の説明

グループディスカッション

まとめ

閉会

7. 第3回会議の概要

【開会の挨拶(教育長)】

参加者の皆様、本日はお忙しいなかご参集いただきましてありがとうございます。

本会議も今年度3回目となりました。第1回第2回で新しい学校作りに対する皆様方の思いや考えを様々な形で聞かせていただきました。それを集約する形で、今年度の集大成として基本構想案を事務局の方で作成させていただきました。これまでの長い歴史の中での経過、またこの第1回第2回会議での内容をまとめ、その内容から新しい学校作りの視点ということで細部を書かせていただいております。本日はこの資料を元に、忌憚のないご意見を様々な視点から出していただくとともに、このことが、来年度以降の基本計画の一番の礎のもととなりますように、案を固めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

【座長より(座長)】

皆さん、こんにちは。この会議も3回目を迎えて今日が最後の会議になります。これまで、この会議では「これからの学びを実現する生駒南小中学校の施設整備を考える」ことをテーマに進めてまいりました。それを基本構想案としてまとめていくことでこの会議の成果を出していきたいと考えております。本日が最後の検討になりますので、この基本構想案について、皆さん方からいろいろ意見を出していただいて、より精度の高い内容の濃いものに改善していくということを、本日の仕事として皆さん方をお願いしたいと思います。まずはお手元にごございます資料1の基本構想案について、具体的に今までどういことを皆さん方で検討していただいて、その成果としてどういう視点が定められるのかということについて事務局より説明をいただきます。資料1については、初めてご覧だと思いますので、ご説明の間にこの資料を理解していただいて、それをベースにワークショップを進めたいと思います。

【基本構想案について(事務局)】

基本構想はこれまでの論議の経過の整理と、地域の皆さんが新しい学校に期待する思いの明文化を図り、今後の基本計画や設計の考え方の土台とすることを目的として、策定するものです。これから行っていく設計等では、この基本構想に記載したことを具体的に形にしていくものとなります。この基本構想案は、この後に行っていただくワークの内容も含めて、2月下旬に市長が招集する総合教育会議と教育委員による教育委員会に議案として上程し、決定していくものです。

基本構想の作りについてご説明いたします。目次では、1から6の大項目を設けており、1から5はこれまでの議論の経緯を主にまとめております。6は、「これからの学びを実現する生駒南小中学校の施設整備を考える会議」の内容をまとめており、この部分が基本構想の最も中心となるものです。それぞれの内容について説明いたします。

1ページの「はじめに」では、南小中の学校整備事業を行うにあたり、これまで行ってきた議論や検討会議の流れを記載しております。2ページの「生駒南小学校・生駒南中学校の歴史」では、それぞれの学校の学校史を記載しております。3ページの3の「生駒南小学校・生駒南中学校の現状と整備の目的」では、現状の児童生徒数や学級数、教室の配置を記載しております。南小学校では、令和5年5月現在で、児童数375人、学級数は特別支援学級を入れて18学級、南中学校は143人で、特別支援学級を入れて8学級、南小学校は、通常学級が1学年で2学級以上であることから、望ましい規模の学校を維持しているものの、南中学校では1学級という学年もありますので、今の段階で小規模学校となっております。小規模学校は、きめ細やかな指導が行いやすいことや、1人1人の活躍の機会が創出されるメリットがあります。しかし、合唱や合奏といった集団学習や部活動の種類が限られるという制約が出てくるデメリットもあります。これらのことから、通学区域の調整区域の設定や施設一体型の小中一貫教育の推進によって教育環境を整備していくことを記載しております。7ページの4の「学校づくりの方向性について」では、令和5年1月の教育委員会で議決された教育の方向性、施設の方向性、校区の方向性を記載しております。これはこの会議の第1回目で配布した資料にもありましたが、小中一貫教育を最大限生かして、子どもたちに最適な教育、機会を提供できるようにすることや、小中一貫教育を一層推進できるように、施設一体型の学校施設を検討すること、校区において調整区域を設定することを打ち出しております。9ページの「生駒南小学校・生駒南中学校整備事業の具体的内容」では、これまでの1から4の内容から、具体的にどのように整備を進めるかを記載しております。(1)の設置方針では、施設一体型の学校整備を進めていくことや地域でも、学校を有効活用し、活気あるまち作りに寄与できるようにすることを掲げております。(2)の学校設置場所については、現在の南小学校と南中学校の敷地において、新しい学校を整備することを記載しております。(3)の通学区域では、小瀬町や壺分西といった、隣接する地域の子どもたちも、南小中学校に通学できるように調整区域を、早期に設定することを記載しております。(4)の整備スケジュールでは、今後の整備事業の流れを説明しております。12ページの6の「地域と考えるこれからの学校」では、皆さんと今回行っている会議の内容をまとめて記載することとなっております。この部分が、基本構想の核であり、本日この後ワークでも考えてもらう部分でございます。(1)(2)では、第1回目の会議と第2回目の会議の内容をまとめており、本日の内容については(3)で記すこととなります。(1)は第1回目の会議について、座長を務めていただいております大阪市立大学名誉教授の横山先生から、建築の側面から見た、小中一貫教育について説明があり、その後、小中一貫校について、参加者の皆さんが感じていることを出し合ってもらいました。基本構想の中にいただいた意見を書いておりますが、これまでのクラスや学年といった単位に加えて、幅広い年齢が会おう場になることへの期待や、中1ギャップの解消、小中の教員が同じ空間にいることの利点、学校と地域が繋がることによる、活動の拡大、地域も保護者も教職員も子どももみんなが変わっていき、良い方向に向かうことへの期待、新しい学校作りへ向けて、これまでの常識にとらわれずに乗り越えていく取り組みを進めることの重要性などの意見が上がっておりました。13ページの下段のところは1回目のまとめを書かせていただいております。14ページの(2)は第2回目の「学びや施設に関する学校の未来」についてワークショップを行いました。前半は「思い出を共有編」ということで、学校での友達との出会いや思い出、学校での校舎や建物の思い出、学校での行事に関する思い出の3テーマで話を出し合ってもらいました。様々な思い出を出してもらいましたが、最も古い記憶である小学校での思い出が多く出され、小学校が特別な場所であったということが、このワークショップの中でわかりました。横山先生から芽づる式という言葉もありましたが、話していくうちにどんどん記憶は呼び覚まされ、学校で過ごした思い出は皆さんの心の中に残っております。学校は子どもたちにとって、ただ勉強し、生活する場だけではなく、小学校において根本となる部分を養うための土台というものと考えます。子どもたちが

卒業してからも、生駒南小学校・生駒南中学校で過ごした日々を糧として人生を歩むことができるよう、記憶に残る経験ができる環境を整備していくことを目指していくことを基本構想では整理しております。また、今の学校にはない思い出話も多く出され、学校は変わらないように見えていても、実は時代によって変化しているということがわかります。時代に合った最適な学びが実現できるように、これまでの学校という先入観に縛られずに、幅広い視野で学校づくりを進めていく必要があると記載しております。後半の「未来の学びを共有編」では、昔はなかったけど今はあるもの、20年後に必要なと思われるスキル、新入社員に持って置いて欲しいスキル、の3テーマで話し合っていました。皆さまからいただいた意見は16ページの表にまとめております。このような意見があり、今の学校には昔にはなかったものがあふれております。これまでのような、全員が同じではなく、多様性を認め合うことが当たり前の時代となり、学校のあり方も時代とともに変化しますが、建物としての学校は時代が変化しても、そこに存在し続けるものであるため、時代の変化に柔軟に対応し、その時々々の教育環境に合わせた使い方が可能な空間を備えた施設整備をする必要があります。また、学校は子供たちと地域の方々との交流の場としての役割も果たしており、施設一体型の学校では、幅広い年齢層が一緒に生活することにより、お互いを思いやる気持ちを育む環境が自然と生まれ、こうした心を育み、あらゆることに当事者意識を持って取り組める環境を生み出すような空間を求められる旨をまとめて記載しております。第2回の会議において、皆さんの話を聞いて、横山先生から、家庭、地域、その他様々な人間が関わり、地域全体で教育して、子どもの心を育てていくことが大切であり、学校作りの基本的な考え方になることと、真面目な中でも楽しんで学校作りをしていくことが大切だという話をいただきました。最後に(4)では、「新しい学校づくりの視点」として、事務局で5点の視点をまとめております。別に配っております参考資料では、皆さまのどの意見からこの案が作成されたかというところをまとめておりますので、それを参考にこの案について、これから皆様に意見をいただいて考えていただきたいと考えておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。説明は以上でございます。

【ワークショップについて(座長)】

今、ご説明にありましたように、この考える会の最終的なまとめは基本構想を策定するということとなります。12ページ以降の部分については、1回目2回目の会議でどういう議論があったのかということ、事務局の方が素敵な文章でまとめてくださっていますので、これについてはまた改めてじっくり読んでください。本日は、18ページに書かれている新しい学校作りの視点ということに焦点をあてて議論を進めたいと思います。ここでは5つの項目が整理されており、これは先ほどの説明にもありましたが、皆さん方のご意見をもとにして、整理された視点となっております。このことについて、今日は少し内容を充実させていく、この視点を充実させていくということで、ここに示されている視点をもっと深めていくようなアイデアですとか、考え方、あるいはこう言ってるけどもっとこういう考え方もあるよね、という、広がりと同時に深まりの両方をそれぞれの視点について考えていただきたいと思います。

【会議に関する意見交換】

〈会議メンバー①〉

このまま作業に入ったら、これだけの人が集まっている意味がないと思います。課長さんから、この資料について説明がありましたが、これだけ1年間かけて、もしこの内容で報告があったとしたら、これは何を基にして考えたらいいか私はわからないと思います。これが一つです。

特に第1回目は、座長から、こういう形の一貫教育があると、それに伴う参考例ですね、資料はこれこれであると、そういう説明でした。今、皆さんが意見を言われたと。私はその中でですね、特に一貫教育ということは市の方針として掲げておられるので、それに伴う施設整備を考える会ということで、施設整備はどうなのかということについて議論したと思います。私は、その中で、特に校舎の形、あるいはグラウンド、スポーツ施設も含めて、どういう形になるのかということを討議するものだと考えておりました。その第1弾の会議が8月にあったわけです。一貫教育を行う上でこういうメリットがあるとおっしゃいました。こういう施設があると、そこまではわかりますが、やはりデメリットの部分について、もっと討議がいるのではないかと、なぜ私がそういうふうに言うかと申し上げます、メリットについてはそれなりに、皆さんよくわかると思うのですが、デメリットについて、しっかり皆さんが共有して考えていかないと、良いものにならない。特に私は、そのデメリットについて再討議がいると思います。

それから、8月から今日に至るまで、いろんな実践校があったと思います。そこでメリットは語られますけれど、デメリットについてもやっぱり語られていると思います。それをやはりこういう場で提示をして、今度新しい教育を行うのであれば、こういうことをやるので、これを解消してこういうふうな施設を作りたいと、こういうふうな基本構想については出すべきじゃないのでしょうか。これまでの討議から言うと、それは全然ここに反映されてないのではないかと思います。これで皆さん、どういうものができるのかわかりますか。私は正直言ってわかりません。それについて、前回のワークショップの形ですね、思い出を語って、皆さんと共有したと、それはいいですよ、それはいいですけど、あの時間を使ってもっと深い討議がなされるべきではなかったのでしょうか。あれは大学生の新入生キャンプとか、あるいは高校生のみなが仲良く楽しく、この後もこのテーマについて話し合いますよ、というきっかけぐらいの内容ではないかと思えます。もっと専門家の座長から、そういうことについて、例えばつくば市であり、豊中市であり、いろんな市で一貫教育ということについて、報告書を上げられています。その内容というのはいま150ページとか200ページにわたる詳しいものです。子どもにも、先生方にも、保護者にも、地域住民にもアンケートを取っています。それから専門家にインタビューも行っています。そういうものがまとまっていますので、それをご紹介いただくとか、やはり議論が深まるような内容を提示しておかないとダメではないでしょうか。今日もこんなことで作業するかと思うと、非常に残念に思います。

ですから、もう少し座長にお願いしたいのは、やはり専門家としてこういうふうな問題点があって、こういう点を克服すべきではないかということをご紹介いただいて、論議が深まるようにしていただきたい。それから市の方には、この間の市長懇談会で、南地区としての要望を出しました。その中には、具体的に今の北小中の一貫教育を行っている学校に対して、特に保護者に対しても、もっと調査とインタビューを行うべきではないかと。それから、大きな北小中の見学に行きましたが、あの時はまだこれからやりますという意気込みを私達はお聞きしたと思うのですが、どうなってるのかと。保護者はどう思ってるのか、地域住民はどう思ってるのか、その中の生徒はどう思ってるのかということは何、聞いてると思うんですよね。だからそういうことも含めて、私達はもっと勉強してここに臨まないで、これから50年、80年かけて作る小学校について、やはりもっと良いものにするように、考えたと思います。もう少し後になりますけど、小中学校を同じ敷地内に作ると、皆さん、これ見たらわかりますようにあの広い敷地です。この敷地の中に、小学校と中学校の校舎を建てるということです。校舎は一緒にやった方がずっと安上がりになると、それはよく理解できます。しかし、学校生活の場ってというのは、やはり年齢によって大きく違うと思います。ですから、どう配置するかというのは本当に一生懸命考えなければならぬ課題ではないかと、それで教育長とかあるいは市長は、この住民とのやり取りの中でどのようにおっしゃってるかという、小学校の校舎、中学校の校舎、その両方を共有部分で繋ぐと、このような検討を行っているというように、何回かの場面でそういう回答を聞きました。しかし、座長は第1回目の会議のときに、同じ建物に入れる方がずっといいとおっしゃいました。しかしその根拠について、私はしっかり理解できたとは思いません。ですから、最後にお聞きしたいのは、小中の校舎あるいはそれを繋ぐ共用部分というふうな考えでよろしいのでしょうか。

〈教育長〉

貴重なご意見ありがとうございます。全く何もまだ決まっています。私が申し上げたのは、例えばそういう方法があるという一例をお示しただけで、そんなふうに進めていきたいというような解釈ではないです。全く何も決まっています。それを基本計画として来年度具体的な方針であったり、建物であったりということを進めていく予定です。11ページに計画の全体スケジュールのことを書いています。今年度は、基本構想です。基本構想というのは、今日も含めて3回の会議で、どんな学校を作っていくのかということに本当に構想の部分なんです。ですから、18ページに書いてあるこんな学校を作りたいという皆さんから出てきた意見を集約した5つの視点で、来年度から具体的な計画を立てていくということになります。今年度、行っているこの会議は、学校ってそもそも何なのか、150年続いてきたこの生駒南の小学校と中学校に対して、今後どういう姿を皆さんがイメージとして持っているのか、どんな学校を作りたいのかということの意見の集約であり、その集大成がこの基本構想案であって、今おっしゃっていることはその次の段階の基本計画の部分だと私達は解釈をしております。ですから、校舎について小中学校施設一体型というところは様々な選択肢があるわけで、今おっしゃった小学校、中学校間に共通部分というのは、一例として挙げさせていただいた限りであって、そのことが決定しているということでもないですし、他にもいろいろなデザインがあります。だからこそ、今おっしゃられた2階3階にしている北小中学校では実際どうなんだ、視察に行かせていただいた王寺義務教育学校のその後はどうなんだ、ということの研究も含めて、また豊中

やつくばをはじめ、全国で報告書が出ている先進事例を学びながら、来年度基本計画を作成していくように考えております。

〈会議メンバー①〉

これからということですね。まだ、何も決まっていないと。

〈教育長〉

はい

〈会議メンバー①〉

それからもう一つ。

今、教育とそれから校舎の問題ですけれども、もう一つ、私は自治会の会長をやっておりますから、地元との関係というのは非常に大事なことだと思います。それは子どもたちが、自分と家族、学校、それから地域、家庭というふうにつながっていく、そういう大きな問題として考えていかなきゃダメだと、そういう意味で、この間、私どもは萩原町理事会総会でやはりこの問題、建て替え問題については、どうなってるっていう事はほとんど知られてなかったです。だからこの地域にこれから50年、80年、一つの文化拠点あるいは防災の拠点、それから生涯教育も含めて、そういう大事な施設がこれからできるというときに、住民が知らないというのは、これは考えられないと思います。やはり地域の拠点として非常に重要なことで、それをまだこれ2年間もやって、住民が初めて総会で出てきたっていうのは考えられないような形ですね。例えば、この小学校の前ですけれど、狭いです。それについて、やはりこの壁際をずっともっと広げてほしいと思います。これは通学路の安全の問題とも関わってます。中学校のこちらの道路も、坂道で給食センターの車がバックから入っていくと、もう本当に狭いです。そういうことも含めて、やはりこの地域に立地している小学校、それからせせらぎとの関係、それから駅との関係も含めて、やはり総合的に考えていただきたいと思うわけです。ですから、防災拠点、それから生涯教育の拠点、文化拠点、それをせせらぎという一つの拠点もありますから、それも含めて総合的に考えていただきたいと思います。

〈座長〉

今、教育長がおっしゃったように、会議の名前が施設整備を考えるということなので、例えばどこにつくるかとかどんな形にするかというように思いがちかもしれませんが、建物はすべからず何でもそうなのですが、どういう使い方をするのか、住まいだっって最初から形で入っていくわけではなくて、家族構成は何人で、どんな家族の関係を作りたくて、どんなことを家の中でしたいとか、こんな夢があってと、そういうことを基本的に考えながら、それをベースにして、今度は形を考えていくこととなります。少し誤解があったかもしれませんが、皆さん方の、この3回の会議というのは、学校の形をどうするかということではなく、その中身をどうしたいかという、その形をどうするかということではなく、子どもたちがそこでどのように過ごすのか、地域はどう関わるのか、先生方はどのように学びをつくり上げていきたいのかということを考える、そのベースをここでお考えいただいて、それを元にして、来年度、今度はまた中身ももっといろんなことを考えながら形づくりを進めていくこととなります。授業カリキュラムをどう組むのかとか、一貫校としての先生方のお互いの関係性をどう作っていくのかとか、もう考えなければならないことはいろいろありますが、徐々に具体化していく。その具体化していくための基本的な考え方を整理していると定義していただくのがこの会の役割だと思っておりますので、全然形の話は出ないじゃないかという、施設と言いながら、施設の話が出ないじゃないかというのは、ちょっと置いていただいて、施設を考えるための、まずは中身のことを考えて、どんな子どもに育てほしいのか、あるいはどんな地域でありたいのかということも含めて考えていただくというのがこの会の目的です。それからもう一つは、そのメリットとデメリットの話ですが、これは、一貫校だからこんなメリットがあってこんなデメリットがあるという言い方よりも、一つ一つの学校ごとに色々特徴がありますので、学校ごとにメリットもデメリットもあるものです。そういう中で一番私がデメリットだと思うのは、一貫校を作ったのに、一貫校にならない。要するに、小学校、中学校は別々で、ただ一緒にあるだけ、校舎が並んでいるだけという学校が、私は一貫校の最大のデメリットだと思っています。ですから、それをどうやって克服していくのかということは考えなければいけないと思っています。何か、シビアなご意見の後で夢のある話をしましょうという言い方はまずいかもかもしれませんが、この会というのは、これから学校を作っていくための、レールの始まりなんですね。だからレールを、楽しい学校、面白い学校、豊かな学校って

いう方向に行くのか、それとももっとシビアなことをいろいろ提案してがんじがらめにするような学校を提案し、考えていくのかという、そういうことも含めて方向性をお考えいただきたい。やはり子どもたちにとって楽しい生き生きと学べるような、活動できるような学校を作りたいという思いは、もう皆さん共通だと思いますので、そういう学校に向けて、何を基本に考えるのかということについて、今日は最後のご検討をお願いしたい。皆さん方の夢をたくさんここに描き出してください、今日全てまとめてしまうということではなくて、意見をたくさん出していただいて、それをベースにして、今後の展開を考えていくということなので、あまりまとめる必要はなくて、むしろ自由に御意見を出していただくということをお願いしたいと思います。この後の進め方ですが、今お手元に模造紙があります。先ほどの5つの視点と、それからその他という枠がその模造紙には用意されており、それぞれの①から⑤まで具体的な視点が書かれていますので、それに関して、これはもうちょっとこんなふうに広げた方がいいんじゃないか、別の考え方もあるんじゃないかとか、それからこれはこんなふうに具体的に考えていけばより深まるんじゃないかっていうようなことをそれぞれの視点について、まず皆さん方お1人お1人で考えていただいて、お手元のポストイットに書いていただいて、該当する視点にそれを貼っていただくという作業をお願いします。それから、貼っていただいた上で、グループで少し整理をしていただいて、これとこれは共通するから、一つでいいとか、これは大局的な意見なので両方併記しようとかそういうことを含めて、少しまたその議論の中でも新しいご意見が出てくれば、それを加えていただいて、ポストイットをその模造紙の上で整理をしていただく、そして、最後に各班で発表していただくという三つの工程を考えております。その工程の中でまず皆さん方、それぞれで考えていただいてポストイットに書き、なおかつ班でそれをまとめていただき、整理していただくという作業を、今から30分ぐらいでお願いして、その後、各班で2分ぐらいの発表をしていただいて、それで最後にまとめをしたいと思います。進め方についてはいかがでしょうか。

〈参加者①〉

今度、教育委員会がございますね。そのときにそれなりの基本構想を提案されるわけですよ。この内容で、意見をちょっと付け足したぐらいで、教育委員会に出してですね、小中学校のその施設問題について、何が決まるんですか。このぐらいの内容で、もっと明確に箇条書きでもいいから、こういうコンセプトでやります、というようなものを明確に示さないと、こんな、なんというかちょっと絵を書いたような、こういうものが報告書なんですか。

〈座長〉

例えば、この18ページの5項目ありますね。これはですね、相当重要な話です。4番目には、自ら学ぶ、それから主体的に物事に取り組む、という事が書かれていますが、例えばこれを実現する学校をつくる時、どんなふうに考えるか。今までの学校は、教室と廊下しかありません、子どもたちは黒板に向かって一斉形式で座って先生の説明を聞いて質問に答えたりというやり取りで知識を吸収します。それが自ら学ぶということに繋がってなかったんです。ですから、自ら学ぶということは自分で何か疑問を感じる、あるいは課題を設定して、自分で何かを調べて、自分で何かを理解する、全て自分主体で考えていかなければならない。そうすると、一斉形式ではもう成り立たないんです。成り立たなくなると、教室も今のように8メートル四角ぐらいの大きさがあって、廊下があってそれで終わりっていうことだと、調べるための資料も置けない。パソコンを展開するような机もない。そういうところで、自ら学ぶっていうことはできなくなるわけです。そうすると、教室の周りの空間というのは劇的に変化します。そういう要素を、この4番の一言はこれから空間のことを考えていくと、空間そのものも劇的に変化するような、そういうことを、これは示してるんです。ですから、「こんなんでできるのか」とおっしゃいますけど、いろんな自治体で小中一貫のプロポーザルって言って、設計事務所が各自の案を提案する協議・競争があるんですが、そういうときに設計条件として書かれてる内容というのは、まさにこんな話なんです。こんな学校を作ってほしいとそれをベースに考えていくと形に置き換えていくといろんなことが考えられるようになってます。だからあんまりこれをぞんざいには扱わないでいただきたいと思います。

〈参加者①〉

そういう事を言ってるのではなく、もう少し、例えば教育委員会で統一される人も、課長さん説明されましたけど、簡単に説明を受けたわけです。これ何を考えたらいいいのかというのはちょっと疑問でした。これは

教育委員会にちょっと付け足してですね、項目を報告してるわけですね。では何を決めるわけですか。教育委員会は、こういうことを1年間かけてやりましたと、こういうことですか。
今、3回目ですよ。3回でしたら、もう少し深まってないといかんのと違うでしょうか。

〈座長〉

それを今日深めていただきたいという思いであります。

〈参加者①〉

深まりますか。これでは難しいですよ。大学生のフレッシュマンキャンプであれば、お互いに意思疎通をして、自由に意見交換しましょう、ということになるかもしれませんが、地域でこれだけ集まって、いろんな関係の方々が集まって、こんなゲームのようなことをやって何になるんでしょうか、私は疑問に思います。ちょっと他の方に意見を聞いてください。

〈教育長〉

きっとイメージされてる、また、傍聴の方がイメージされている計画というところと、今年度私達がゴールとしているところが違うんだと思うんです。私達の今日のゴール、今年のゴールというのは、まさにこれを作り上げることが当初の目的でありゴールであります。教育委員会、また総合教育会議で市長と共有するのここなんです。これがなかったら学校作りができないと私は考えています。ですから、こういう学校を作りたい、こういう教育をしたいという思いをまず共有することからスタートする。この1年はそれに私達はかけていたわけです。ですから、この集大成のこの意見を集約してこの資料、参考資料を見ていただいたらわかるように、決してそのワークショップ、ワールドカフェも遊びでやっていたのではなくですね、そこで出たこの意見の一つ一つをまとめたのがこの5つの項目なわけなんです。私はすごく重いものだと思っております。ですから、これを今日また肉付けなり、そぎ落とすなりしていただいて、総合教育会議と教育委員会でこれを承認していただく、これが学校作りのもとになると思っております。今おっしゃってる校舎をどうするかその関係をどうするか、他の施設との関わりをどうするかということは、これに基づいて来年度からしっかりと進めていきます。そのときには当然地域の方のご意見、保護者のご意見、教員の意見等をしっかりと汲み取りながら、具体的な学校作りについては来年度からしっかりと進めていきたいと考えております。

〈参加者②〉

これは重要だと思います。これに基づいて、どんな子供を育てていこうかということやから、これが一番重要だと思うけど。どんな子どもを育てていこうかというのも入ってると思います。

〈参加者③〉

私もこれでいけると思います。建物の形とかはだいたい先の話だと思います。今は、我々がどういう子育て、そして学校の基本的なことを考えていくかということを考えていく。11ページにも令和6年度から、基本計画・基本設計・実施設計だけど、こんな早くできるわけない。まず、1年か2年かけて基本計画立てるそのときの参考資料のために、我々は、学校はどうあるべきかと、一貫教育はどうしたらいいかと、この中でいろいろ意見、1回2回やったぐらいでね、そんな建物の形や具体的なことがポーンとできたら、それこそ何の会議や、そんな簡単にできるのかというふうに私は感じます。だから、これをしっかりやって、まだ最後、基本計画なんかできたらそのときに我々メンバー呼んでこういうものを作ったという話もあると思いますけども、それがまた大事であって、我々のところは、今おっしゃるこの18ページのこの辺でどういう学校にしたらいいかということ、この場で提案していったらいいと思いますし、本当に細かいことを考えたらあれやこれやと、もっと大変な検討しなきゃいかんというふうに思いますので、そこまで我々いろいろ選ばれてやったけども、そこまで細かいことは現実にはわからないですよ。私達は今提案されている、この5つの項目について進める。これがやはりいろんな意味で僕は大事だと思います。進めて欲しいなと思います。

〈座長〉

いかがでしょうか。本日はこのまま進めたいと思いますが、ご理解いただけますでしょうか。

〈参加者①〉

いや、私はね、基本的にはその学びについてね、あの子どもたちであれば、生徒さんの学びについて、いろいろ話し合うっていうのは大賛成です。それはもう全然意義はありません。

しかし、座長は、建築のご専門ですね、ちょっとだけ形というのはそのベース、その教育のあり方っていうのと深く関わってるっていうのは、もうその通りだと思います。

いろんな方が新しい学校の形を作られました。そのときは、時間をかけて、やはりベースの討議をされたと思います。今日、これからの内容については私は本当に別に意義はありません。ただ、やはり、施設設備を考える会ですから、その事についての基本的な姿がなかったら我々は1年間何のために集まってたんですかってこういうふうになると思うんですよ。ですから、そこをちゃんとやっていただきたい。それから、何回も言いますがやっぱりデメリットについてね、いいことばかり並べて、これは良い教育ができますよ、では駄目だと思うんですね。むしろデメリットの方が大事。その克服は教育に繋がっていくという。くどいようですよけどそう考えてます。

〈座長〉

ご理解いただいたということで、さっきご意見にあったようにこれでポンと形が出るわけではなく、まだまだこういう議論も繰り返し積み上げていながら、その中に今度は徐々にハードの話、形の話というのが入り込んでくる。そういう両輪で進んでいく段階に次、来年度からは差し掛かるとお思いますので、今年度は基本的な学校の考え方ですね。子供をどう育てたいか地域とどう関わりたいのかということについてある意味わかりやすく言えばソフトの部分に関しての皆さん方のご意見をここに出していただいて、それをもとにして、来年からハードを含めてあるいはソフトももっと充実させていくというやり方でいきたいと思っています。

それでは、今回お示ししている5つの視点には防災とか、そういう視点は抜けておりますので、学校と地域の繋がり方についても、もっと具体的な話があれば書いていただきたいと思います。17時終了ですので、16時50分まで各班でまとめてください。それでは、まずはそれぞれで作業するところから始めてください。楽しく夢のある話をぜひお願いします。学校作りはそうでなければいいものはできませんので、よろしくお願いします。

【ワークショップで出された意見】

①いつまでも心に残り続けるかけがえのない経験ができる学校

・これは結果を言っているのだから、この結果を得るためには②～⑤を充実して実施することに尽きるのでは？⇒①の項目は不要なのではないか。

- ・やさしい先生がたくさんいること。
- ・学校らしくない学校
- ・色々な体験ができる。
- ・運動場、校外学習など仲間を感じる体験が重要と思う。
- ・他学年との交流。放課後こども教室では同学年が固まって遊んでいる実態がある。
- ・学校行事が行いやすい様々な取組ができる環境
- ・多世代の交流活動

②多様性・個性を尊重し、相手を思いやる心のできる心を育む学校

- ・オープンスペース
- ・様々な作品にふれられる。
- ・ユニバーサルデザインを多く取り入れる。
- ・ボランティアを必須教科にする。
- ・課外授業が多くあること。
- ・ボランティア活動
- ・お互いが助け合いのできるような人も思うための強化充実を。
- ・ボランティアで学習支援をしているが、支援を要することもに対して生徒たちは自然に受け入れていると感じている。

- ・自分のことを大切に思えるような周りの大人からの言葉かけを繰り返し、結果自然と相手のことを思いやれるような人間関係。
- ・小中学生との交流
- ・異年齢交流
- ・動物を育てることにより生の大切さを勉強させる。

③地域や他学年と交流しやすく、子どもたちが多様な人たちと交わり、豊かな人間関係を築くことができる学校

- ・物理的な動線
- ・学校施設の中に地域スポーツクラブの事務局がある。
- ・地域のホールや公民館などのある学校
- ・地域の人々が自由に集まれる教室がある。
- ・地域の方と自由に交流できるスペースが身近にある。
- ・地域との交流施設。ゾーニングが重要(文化・スポーツ)。
- ・地域行事にも活用できる施設。
- ・高齢者も行き来しやすい校内。
- ・学校ボランティアの充実、拡大
- ・学校(園)と地元との交流を盛んに。
- ・地域の人たちの知識や経験を活かす放課後学習。
- ・学外学習。宿泊する修学旅行等
- ・多様な体験活動。
- ・国内外の学校との交流。
- ・小学生、中学生が交流できる場所があること。

④子どもたちが自ら学びたいと感じ、主体的に物事に取り組むこと

- ・自分が興味のあることを先生として授業する。
- ・学校の行事に子どもたちが作り上げるものを取り入れるとより自信がつき思い出になる。
- ・PC を利用前提とした机、椅子を用意する。
- ・広くて資料がいっぱいの図書館
- ・図書室と自由に使えるようにし、関連の教材を充実させる。
- ・部活を活発にできる人数を！
- ・タブレット片手に子どもたちが必要な資料があるコーナーへ行き、自分が設定したテーマを探求する時間がある。
- ・理科の実験などを通じて興味を深めるきっかけとする。
- ・自分の考え(意見)を自ら解いていく環境づくり。
- ・わかった！できた！と実感できる学習。
- ・教室のスペースを広く取り、様々な授業形態で授業ができる。
- ・学校と地域とのかかわりを経験する。→生徒のどうしたらよいか考えが芽生える。

⑤時代の変化にも柔軟に対応できる、これまでの学校にはない新しい視点を取り入れた学校

- ・音楽とか映像を見るホールがある。
- ・温水プール(地域・学校)
- ・個性を尊重する授業をする。
- ・新しいことにチャレンジ
- ・ケーススタディを取り入れた教育
- ・教科や人材にとらわれない仮称「南を学ぶ時間」の創設。
- ・ぬくもりのある教室(今までの形にとらわれない。)
- ・時代の変化に対応できる自由度の高い教室をいくつかつくる。
- ・国際化学習の強化
- ・先進学校の考えを取り入れながらヒントを得て、地球規模の情報収集をする。

- ・ICT を多く取り入れる。様々なものの自動化。電子案内板など。
- ・教師も学び続ける。

⑥その他の意見

- ・学校まわりの道路を広くして欲しい。
- ・通学路を広げる歩道(308号)
- ・南生駒駅は生駒南地区の重要な拠点に指定されています。地区(南生駒)の総合的な整備を考える。
- ・9歳差を活かした生活
- ・中学校:広々としたスポーツ施設。
- ・小学校:芝生の緑の校庭(地域の人との交流)
- ・身体的な健康を向上させる学校。
- ・居心地がより空間。楽しくてしょうがない空間に。

【ワークショップに関する座長の講評】

学校の計画では、カタチの問題(ハード)と、子ども達がどのように学び、育つのか、地域学校がどのように繋がるか等の中身(ソフト)とが両輪となります。3回の会議で提起された生駒南一貫校の計画にあたっての基本的な目標や考え方は、学習指導要領の改訂や GIGA スクール構想などが目指す主体的・協働的で個別最適な学び、コミュニティスクールにおける学校・地域連携の強化など、これからの学校のあり方と軌を一にしながらも、一貫校らしい多様な交流や人間関係、地域学の創設、地域の願いとしての「心」への訴求など、地域全体で地域独自の学校づくりに向かう意識が示されたと思います。これを端緒に、子ども達が生き生きと豊かに、楽しく学べる学校づくりが進むことを期待します。

【閉会の挨拶(教育長)】

本当に今日はありがとうございました。ワークショップ前に出されたご意見、また傍聴の方のご意見等は本当に最もだと思いました。そもそも、この今日のゴール、今年のゴールというのをしっかりと共有できてなかったところは事務局としても反省するところです。しかし、今日はこの構想案がどれだけ大事な事かということをご皆さんで共通に確認できたことは、本当に素晴らしい時間だったと思っております。全て今日の案は記録としてもまた残していきますし、来年度具体的に学校作りを考えていくときに、しっかりと皆様のご意見が反映できるようにまとめて教育委員会また総合教育会議でも提示をさせていただきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

また、先ほど、座長から3月2日の告知をしていただきましたが、ぜひともこの会員の皆様方にはご参加いただきまして、質疑応答の時間もありますので、この1年間の3回の会議の中身も含めてご意見をいただけたらと思っております。ご参加どうぞよろしくお願いいたします。本当に今日はありがとうございました。

以上